

武漢事務所便り週間新聞記事報告 2010.01.03 - 2010.01.08 38

2010年1月02日付け 「長江ネット」より

国際「姉妹都市」が頻繁に往来し、

100以上のプロジェクトが武漢市民に福をもたらす

日本産の牛乳を飲み、韓国のスターを見て、ドイツの医療サービスを受ける・・・

武漢市国際友好都市業務調整団体会議の情報によると、今後3年間に武漢市は30の国際「姉妹」都市と133の合作プロジェクトを行う予定であり、市民は衣、食、住、旅行、娯楽など様々な分野において恩恵を受けることになりそうだ。

日本大分市は武漢市と最も緊密に協力している友好都市であり、40項目のプロジェクトを占めている。なかでも大分市九州乳業と武漢開隆ハイテク会社は1.3億元を投資し、質の高い乳製品の生産を行う。

ドイツとは主に医療分野における協力を行っている。武漢市はドイツ国内のバド心臓センター、ベルリン心臓センター、デュースブルクエッソン大学、全軍総病院など多くの医療機関と連携しており、武漢市の患者らは心臓血管、整形外科、狂犬病、などの分野において、その恩恵を受けることができる。

情報によると、武漢市は今年だけで10項目以上の外事イベントを行う予定である。9月にアメリカロサンゼルスで行われる「アメリカー武漢ウイーク」、12月の環アジア芸術展中国ステーション、国際友好発展フォーラムのほか、武漢 マレーシア間で初のチャーター機が利用される。

1979年から、武漢市は日本大分市をはじめ、アメリカピッツバーグなど16の外国都市と友好都市を締結し、またフランスエソンヌ県や韓国光州市、日本神戸市など14の外国都市とも友好交流促進都市関係を結んでいる。

2010年1月04日付け 「武漢政府ネット」より

北京中関村に次ぐ第二区

東湖ハイテク区が国家自主イノベーションモデル地区として認定

国務院の許可を得て、東湖ハイテク区が第二自主イノベーションモデル地区

となったことを受け、湖北省は昨日、これを中心とした常務委員会議を開催し、具体的な方針を提出した。

情報によると、東湖ハイテク区は北京中関村に次ぐ第二国家自主イノベーションモデル地区として国務院の認定を受けた。

国務院は認定文書の中に、東湖ハイテク区において中関村科学技術パーク区の関係する政策措置の適用に同意することのほか、株権投資激励政策の展開や科学技術ならびに金融改革モデル促進、新型産業の国家重点科学技術プロジェクト参加支援活動や、発展計画の作成などを含んでいる。

さらに文書には湖北省及び武漢市政府が政府購買政策を積極的に利用し、東湖ハイテク区での優先的な購買や発注を通し、初の重要技術装置の試験とモデルケースなどを実施することで、自主イノベーション商品の普及と企業の自主イノベーションを支援することも含まれており、体制の改革を通じて東湖ハイテク区に世界一流の新型研究機関を建設することを支援するものとしている。

この認定は、東湖ハイテク区の発展段階が新たな歴史を迎えたことを証明しているともいえよう。認定文書には東湖ハイテク区をこの20年間を超えた新たな段階へと発展させ、省エネルギーかつ環境にやさしい「両型」社会建設の促進、ならびにイノベーションのモデルにすることが示されている。

東湖ハイテク区区略史

- 1991年 国家レベルハイテク技術開発区として認定
- 2001年 国家光バレー電子情報産業団地(武漢・中国光バレー)として認定
- 2007年 国家バイオ産業団地として認定
- 2009年 総合性国家高技術産業団地として認定